

Ⅲ 生物生産学部の地域志向型教育の試みと地域体験の位置づけ

1 広島大学生物生産学部の地（知）の拠点整備事業では、中山間地域・島しょ部（条件不利地域）等で優れた取り組みを行っている市町やその中の法人・企業・地域・団体等と連携し、学びを通して中山間地域・島嶼部等の地域課題への認識を深め、解決に向けて自ら考え主体的に行動できる学生の養成を目指している。

2 この中で、広島大学の特色である1年生の教養ゼミにおいて、グループ地域体験活動を基本として、フィールド調査の事前学習、フィールド調査、および振り返りなどを行い、地域が参加した発表会の開催などを通じて、学生のアイデアや提案などが地域貢献につながる授業を展開している。

3 また、中山間地域島しょ部等の地域で活躍している人物を招聘して講演を行なっただき、地域の実情の理解や優良事例の応用展開につながる議論・意見交換、さらには学生と地域の交流連携を行っている。

講師は、広島県内の行政担当者（過疎地域振興、農林水産行政）、農業者（6次産業化、マーケティング、プロモーション）、農商工連携（企業のCSR、地場産品開発）などの分野で優れた取り組みを行っている方々をお願いしている。

4 優れた取り組みを行っている連携地域（中山間地域島しょ部の条件不利地域等）でのフィールドワークにおいて、複数の地域学外演習および調査活動報告を行って、地域活性化対策などの優れた多様な取り組みの実体験を通じて、自ら地域を考え行動・実践できる地域人材の育成を行っている。

5 広島県内を中心とした連携地域において、地（知）の拠点インターンシップを実施し、学生自らが地域理解、地域体験、地域貢献を行い、地（知）の拠点活動を主体的に推進する。

6 地（知）の拠点連携地域（中山間地域島しょ部）を対象に、地域課題をテーマにした卒業論文に取り組み、地域ニーズに即した地域貢献活動を展開する。

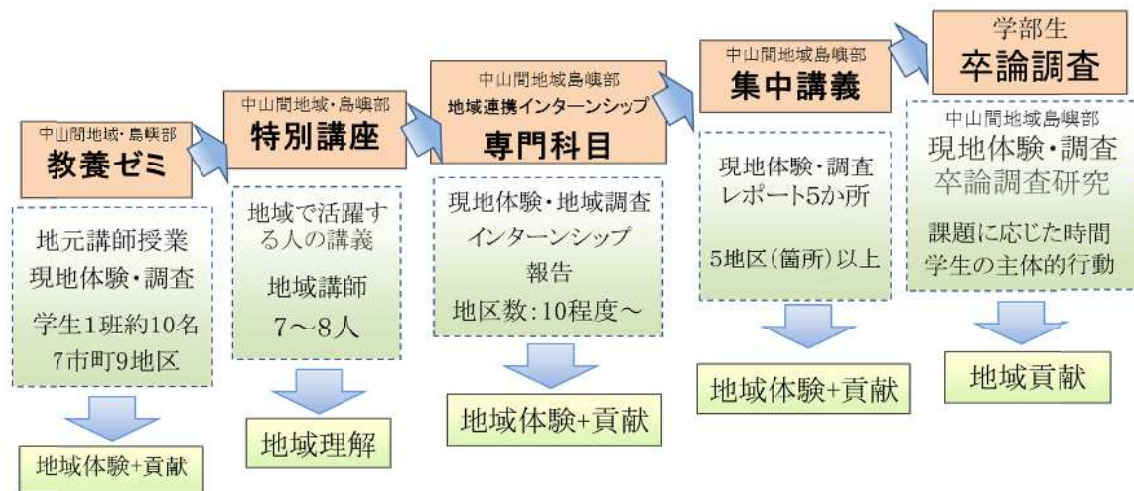


図 生物生産学部における「地(知)の拠点」整備事業教育推進プログラムの概要

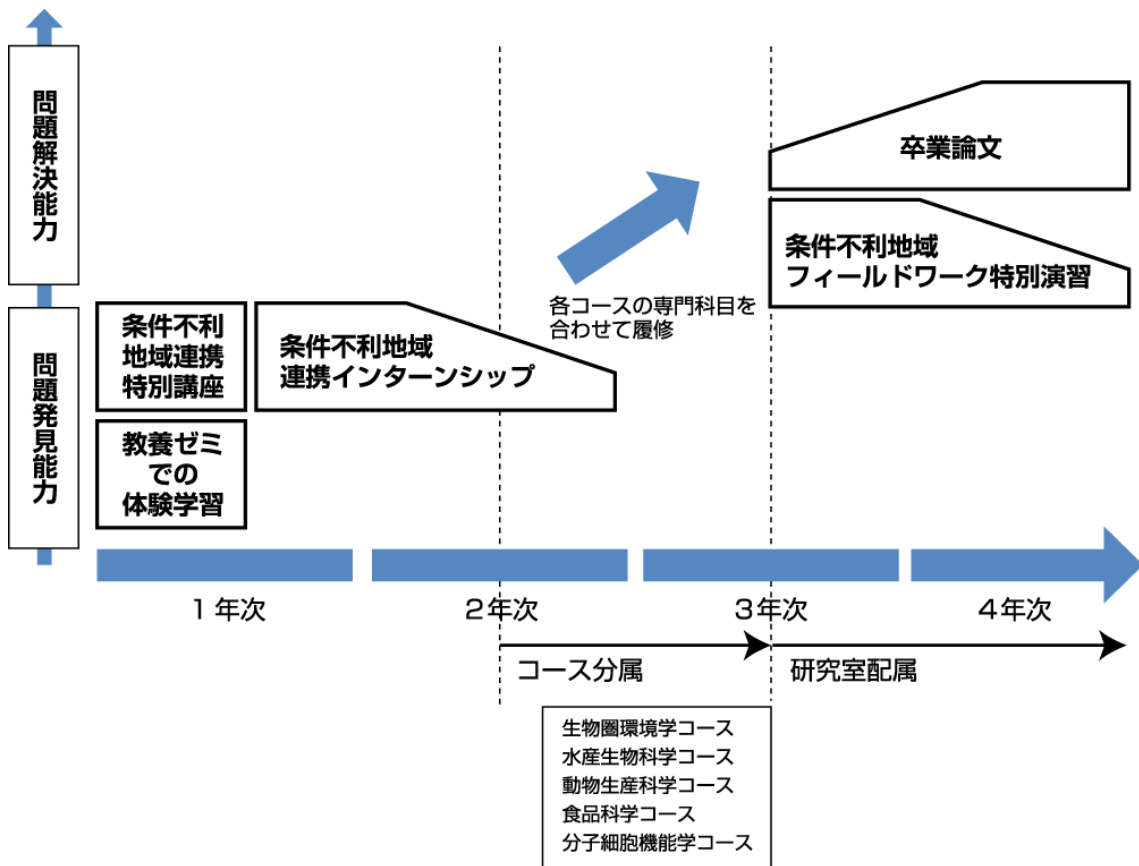


図 生物生産学部における COC 関連科目の位置づけ